

青森県 田邊 高士 さん（46歳）

親元就農

複合（稲作、果樹、
施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

継承前から農家である親元で技術を学びながら手伝いをしていた。将来的に担い手が不足すると予想される業界であることから、いずれは本格的に就農したいと考えていた。
令和 7 年に、親が高齢であることから経営を継承した。

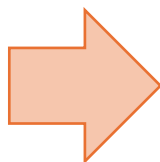
当事業の取組内容

- 課題** ・トラクターを所有していなかったため、田や畑の耕起を外部に委託していた。
そのため、委託費用が発生する上、作業日程を委託先と調整する必要があり、作業がしづらかった。
- 取組** ・トラクター（25ps）
・グレイタスローダーの導入
- 効果** ・委託をせず耕起ができるようになったため、作業に係る費用を抑えることができた。
・作業日程を自身で決めることができるため、作業効率が向上した。

就農状況と今後

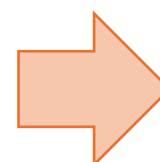
就農準備（R 3～R 6 年）

- ・親元で技術を取得しながら農業の手伝い
- ・他産業に従事しながら家計を維持



経営初期（R 7 年）～現在

- トマト（6a）、水稻（50a）
りんご（50a）
- ・R 8 年 2 月に当事業を活用し、トラクターとグレイタスローダーを導入
 - ・事業で取得したトラクターを活用し、経営面積の拡大を目指している。
 - ・農業所得は約250万円



今後の目標（就農 5 年後）

- トマト（20a）、水稻（50a）
りんご（100a）
- ・地元産直での販売を拡大する。
 - ・自動灌水を取り入れ、作業の効率化を図る。
 - ・農業所得は約500万円

山形県 佐藤 克己 さん（28歳）

親元就農

露地野菜



令和 7 年 7 月導入

新規就農を志した経緯・背景

地元の農業協同組合に勤務しながら、いずれは自身が農業を継ぐつもりで、実家の水稻・枝豆栽培の作業を手伝ってきた。

父の代では、周辺農家と比べて経営面積が小規模だったが、自身に農地の引き受けの打診があり、規模拡大の目途が立ったことをきっかけに、令和 7 年 1 月に事業を継承・経営を開始。

当事業の取組内容

課題

- ・手押し式の管理機と動噴を使って防除作業を行っているが、作業効率が悪く、規模拡大のためには高性能機械の導入が不可欠。
- ・農地の引受依頼による規模拡大を見越した設備の増強が必要。

取組

- ・当事業により、乗用管理機 1 台、ロータリーカルチ 1 台を導入。
- ・これらの機械は、防除や中耕培土など、枝豆の生育を安定させるための栽培管理に使用。

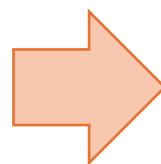
効果

- ・管理機が手押し式から乗用に変わったことで、防除作業効率が 5 倍以上に向上。
- ・ロータリーカルチの使用は今期作から中耕培土の着実な実施により、土壌条件の改善による収量の安定化が見込める。

就農状況と今後

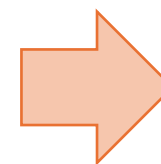
就農準備（R 6～R 7 年）

- ・家業を手伝いながら、栽培や経営に関する知識・技術を習得
- ・各種手続きを進め、令和 7 年 1 月に父から経営を継承
- ・初年度は枝豆 184a を栽培



経営初期（R 7 年）～現在

- ・**令和 7 年 7 月に当事業を活用し、乗用管理機、ロータリーカルチを導入**
- ・導入した機械を活用し、枝豆の栽培面積を 215a まで拡大
- ・栽培管理作業の徹底により、収量と品質の安定化を図る。
- ・農業所得は 200 万円を見込む



今後の目標（就農 4 年後）

- ・枝豆の栽培面積を 285a まで拡大
- ・周辺農家と協議しながら、農地の集積に加えて集約も図りながら、効率的な規模拡大を実現
- ・所得目標は 275 万円

※ 自身の経営（枝豆）に加え、集落営農法人の経営（水稻）にも参画。（引受面積 15ha 程度）

愛知県 白柴農園株式会社 白井 一城 さん（31歳）

親元就農

露地野菜



新規就農を志した経緯・背景

祖父母と父で営農していたが、平成30年に祖父母の病気等で営農できなくなり、その後、父も病気で障害を負ったことがきっかけで、令和2年に就農した。父のもとで施設の修繕や整備を行って営農してきたが、規模拡大を機に、令和6年に経営継承して法人化し、経営を開始した。

当事業の取組内容

- 課題**
- ・面積拡大に伴い、農業機械の馬力不足で作業効率が悪く、適期作業ができなかった。
 - ・特に定植作業において、天候により耕起不十分で生育不良が発生し、3～4割収穫できないこともあった。

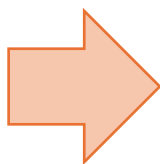
- 取組**
- ・トラクター60ps 1台（高性能ロータリー）の導入

- 効果**
- ・令和8年2月に導入後は、耕起作業において作業の効率化と安定化が図られていることから、今後は、生育不良による収穫ロス削減が見込まれる。
 - ・また、キャベツ生産の3割を年1作から2作にすることが可能となるため、生産量の拡大が見込まれる。

就農状況と今後

就農準備（R元年）

- ・令和元年にキャベツ・レタストウモロコシ・青梗菜を栽培する静岡の農業法人で1年間従業員として従事し研修を行い、令和2年3月に就農した。



経営開始（R2年）～現在

- ・令和6年2月 法人化して経営開始し、認定農業者となった。
- ・キャベツ120a、白ネギ40a、エンドウ、メロン各18aで開始し、翌年令和7年にハウス2.4aエンドウ55aに拡大し、令和8年には、キャベツ140a、メロン30aと更に経営規模を拡大した。
- ・令和8年2月に当事業を活用し、トラクターを導入



今後の目標

- ・令和11年（就農9年後）には、キャベツ220a、白ネギ50a、エンドウ、メロン各55a計380aに拡大予定。
- ・将来的には、100haまで拡大し、B型事業所の設立も目指し、持続可能な幸福度の高い農業を実現したい。

宮崎県

山田 祐太郎 さん（41歳）

親元就農

繁殖牛



新規就農を志した経緯・背景

幼いころから繁殖農家である父の姿を見て育ち、憧れがあった。
家畜改良事業団で10年間勤務し、繁殖牛に関する技術と知識を習得。
この経験を活かし、肉用牛繁殖專業型の営農事業の継承を決意。

当事業の取組内容

課題

- ・自己資金の不足
- ・経営拡大を見据えた計画策定
- ・気温上昇による牛の体温管理

取組

- ・妊娠牛10頭の購入
- ・細霧装置の導入

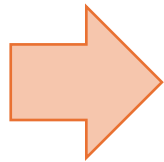
効果

- ・繁殖牛経営の基盤構築に成功し、事業拡大を計画中。
- ・細霧装置により、牛舎内の温度管理を最適化し、夏場のストレスを軽減。
- ・これにより牛の健康状態が改善され、繁殖効率の向上が期待される。

就農状況と今後

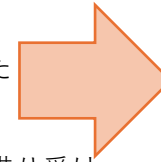
就農準備（～R5年）

- ・令和4年3月頃から
休日に手伝いをし、
技術習得を行った。



経営開始（R6年）～現在

- ・妻とともに本格的な農業経営を開始。
- ・繁殖牛50頭から事業を始動。
- ・牛舎、堆肥舎、倉庫を整備し、地域労働力を活用した
経営拡大に取り組む。
- ・中古トラクターを2台導入予定
- ・父親所有の農地2haを農地中間管理事業を活用して借り受け
- ・令和7年度農業所得：約550万円
- ・当事業を活用し、令和7年12月に細霧装置を導入
令和8年3月に妊娠牛を購入



今後の目標（就農10年後）

- ・父親の経営を参考にしつつ販路
をさらに開拓
- ・地域貢献を視野に入れた、持続
可能な農業経営に力を入れる。
- ・農業所得の目標：約950万円